

平成29年度 園の自己評価

A…できている B…おおむねできている C…一部改善を要する D…改善を要する

1. 保育理念、保育観		
1	園の保育理念、保育方針、全体的な計画を全職員に周知している	A
2	園の保育方針を基にした、全体的な計画が立てられている	A
3	定期的に保育方針や保育観を確認できるような機会を作っている	B
4	全体的な計画を基に行事や園外保育を計画し、実践、分析、評価を行っている	A
<p>年度が始めるには、理事長、園長から園の方針について説明がされ、全職員が共通理解をした上で、保育にあたることができるよう心掛けている。全体的な計画についても年度初めに勉強会を行い、全体周知を図っているが、年度途中での保育方針や保育観の見直しという点は個人に任せられている部分が多い。全職員で意見交換や思いを話し合う場を設ける事を検討していきたい。</p> <p>また、年度の終わりには保育の反省や指導計画などの見直しを行い、次年度へ役立つよう活用されている。</p>		
2. 保育計画、保育実践と振り返り		
1	全体的な計画を基に、各クラスで年間の目標を立案し、計画的に保育を行っている	A
2	子どもの発達を理解し、その先に見通しを持った保育を工夫している	A
3	配慮が必要な場合は、職員が共通認識を持ち、その子に応じた対応をしている	A
4	保育の振り返りを定期的に行い、今後に生かせるようにしている	A
<p>クラス計画は、クラスリーダーが主に作成するが、クラス会議でその内容について見直しや話し合いが行われている。モンテッソーリ教育は子どもの発達を観察しながら環境整備を進めていくので、保育者は子どもの発達をしっかりと頭に入れながら保育にあたる努力がされている。保育計画の中では、毎年、行事についての検討もされている。モンテッソーリ教育は日常生活を大切に考えられているので、行事との両立は難しい面もあるが、幼児の心身の発達の成長に必要な行事は内容や行い方を検討し、目的をよく考えながら行っている。また、乳児および特に0歳児の行事の参加については、その年のクラスの子どもの育ちの傾向も考慮しながら話し合っている。配慮が必要なことに対しては、職員会議で全体周知をし、その後は各クラスで非常勤やパート職員にも伝達をし、共通認識を持つようにしている。</p>		
3. 環境、安全		
1	一人一人が安心して過ごせる環境を工夫している	A
2	園の保育方針を基にした、環境構成が整えられている	B
3	職員一人一人が健康、安全に対する認識を持っている	A
4	職員が危機管理意識を常に持ち、緊急時に対応できるようにしている	A
<p>モンテッソーリ教育を通して保育室の環境は充実し、適切な援助がされているといえる。</p> <p>現在、園庭は完成へ向けて歩みを進め、計画や施工がされている最中であるが、四季を感じられる木々や草花など、自然環境の充実が望まれる。</p> <p>安全管理においては副園長を中心に行われており、気になることには素早く対応し、改善が計られている。</p> <p>最近では大型台風や集中豪雨などの自然災害の被害も大きく報じられるようになってきているが、本園は大きな山を背中に抱えているので、避難訓練では土砂災害の設定も新たに取り入れた。自然災害には「想定外」という言葉がよく使われるが、「想定外」がないよう、マニュアルの見直しに取り組んでいくことを現在検討している。</p>		
4. 食育		
1	職員が食育の重要性を理解し、季節や年齢に合わせた食育計画を立てている	A
2	栄養士、保育士などが連携し、食育を積極的に進めている	B
3	食材の安全に配慮した上で、様々な食材を味わえるようにしている	A
4	離乳食やアレルギー除去食などの特別食に配慮している	A

じゃがいも、さつまいもの芋ほり体験をはじめとし、季節の野菜を栽培してクッキング活動に役立てたり、給食では旬の食材を積極的に取り入れて季節の味わいを楽しむことができている。

調理室とは、よく連携が取れているが、食育活動は保育者が中心となって行うことが多く、調理員や栄養士の携わりが少ないことが課題で、今後は専門的な立場からの食育も行えるように計画をしている。

クッキングも盛んに行い、おやつ作りなどを楽しんだり、園児は包丁などの道具の使い方も経験の中で習得している。

保護者への給食アンケート調査では、園の給食における満足度は高い評価を得ているので、今後も保護者の期待に応えられるようなおいしい給食作り、食育を続けていきたい。食物アレルギーの除去食については、家庭と連携して、きめ細かに対応している。

5. 職員構成、役割分担、研修		
1	職員の仕事や役割を明確にし、連携しながら円滑に保育が進むよう、心がけている	A
2	園内、園外研修の年間計画を立てて、実行している	A
3	各職員が保育を深めるための研修を積極的に行っている	A

年度初めに主幹保育教諭を中心に、園務分掌として、園の運営における係や行事担当を決めているが、各職員の個性や得意なことを生かしながら、適材適所の配置を心がけ、一人ひとりの力が発揮できるように配慮をしている。

園内、園外の研修には人員配置を工夫しながら積極的に参加するようにしているが、研修報告の時間や場がなかなか持たなく、回覧で済ませてしまうことが多いことが課題であり、学んだことをもっと多くの職員に伝達できるような場を検討している。すぐに他の職員に知らせた方がよい内容のものは、ミーティングで伝達したり資料を配布して役立てている。

6. 保護者支援、子育て支援		
1	保護者に対し、園の保育保育内容や子どもの姿がわかるような発信をしている	A
2	保護者の状況など、個人情報への漏えいに気をつけている	A
3	保護者の子育てを支え、子育ての喜びを共有するよう、心掛けている	A
4	地域で子育てをしている親子に配慮し、園児との交流を積極的に進めている	A

園日よりクラスだよりは、日頃の活動の様子を伝えられるよう、カラー印刷でわかりやすく時間をかけて作成し、努力している。また、門扉の横に新しく取り付けられた大きな掲示板では、園の活動紹介を写真を交えて積極的に行い、保護者だけでなく、地域の子育て中の親子や地域へ向けてのよい情報発信の場となっている。

また、月1度の‘子育てサロン’には毎月大勢の地域の親子が来園されるので、ただの場所提供だけでなく、いろんな催しを考え、親子がリフレッシュしたり、子育ての悩みや不安を解消できるよう保健師さんや講師の先生を呼び、有意義な時間となるよう、毎回いい準備をしている。

個人情報の取り扱いには、全職員が細心の注意を払っているが、おたよりノートの入れ間違いが1年に1～2度ほど起きるので、チェック体制を強化しながら改善に努めている。

7. 小学校や地域社会との連携		
1	定期的に地域の保育園や幼稚園、小学校との交流を行っている	C
2	町内会や地域の方との交流を積極的に行っている	B
3	ボランティアや実習生を受け入れる意義を理解し、受け入れ体制が整えられている	A

学区の小学校では、「新一年生体験入学会」が行われており、1年生との触れ合いや、学校見学の良い機会となっているが、幼稚園や保育園など、同世代の子どもどうしの横の交流の機会はあまりない。これは、地域全体で取り組まないとなかなか難しい課題であるともいえる。

また、地域の年2回の祭りには園児、職員ともに積極的に参加し、将来的に地域の担い手として活躍していく地域の子どもとして楽しく経験を積んでいる。地域の老人ホームへの慰問には年3回出かけ、世代間交流を体験する貴重な場となっている。実習生の受け入れについては、職員全体が温かく迎え入れ、丁寧な指導を行い、受け入れ後の礼状などを見ても、有意義な実習経験になっていることが伺える。